



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年2月2日

上場会社名 株式会社ファイズ 上場取引所 東  
 コード番号 9325 URL http://phyz.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榎屋 幸生  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 奥津 慎 TEL 06-6453-0250  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	5,527	43.2	382	30.4	381	33.7	241	35.6
29年3月期第3四半期	3,859	—	293	—	285	—	178	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	47.92	44.46
29年3月期第3四半期	41.65	—

(注) 1. 当社は、第3四半期の業績開示を平成29年3月期より行っているため、平成29年3月期第3四半期の増減率は記載しておりません。

2. 平成28年11月25日付で普通株式1株につき200株の株式分割、平成29年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	2,133	1,025	48.1
29年3月期	2,036	783	38.5

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,025百万円 29年3月期 783百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は定款において、第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

### 3. 平成30年3月期の業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,800	30.4	413	19.5	409	24.3	252	25.4	49.95

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 平成30年3月期の業績予想における1株当たり当期純利益については、平成29年10月1日を効力発生日とする普通株式1株を2株に分割する株式分割が平成30年3月期の期首に行われたと仮定して、算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	5,045,000株	29年3月期	5,045,000株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	一株	29年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	5,045,000株	29年3月期3Q	4,280,000株

(注) 平成28年11月25日付で普通株式1株につき200株の株式分割、平成29年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第3四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5
(重要な後発事象) .....	5

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、引き続き景気回復基調にあり、企業収益は好調さを維持しており、総じて企業業績は底堅く推移いたしました。一方で個人消費については、雇用・所得環境の改善が続く中、消費者マインドは持ち直しておりますが、賃金の上昇ペースが緩慢であること等から堅調ではあるものの力強さを欠きました。

物流業界は消費者の購買スタイルの変化に伴い、貨物の小口化、多頻度化等による輸配送ニーズの多様化に加え、ドライバーや倉庫作業員などの人材不足が社会問題として広く認知されるようになり経営環境は一層厳しさを増しました。

一方EC業界におきましては、宅配料金の値上げ等の不安もある中、個人消費者の購買状況は引き続き上昇傾向にあり、EC市場は平成34年までには26兆円に達する見込みといわれております(出典：株式会社野村総合研究所調べ)。そのため、EC業界における物流の果たす役割は年々重要視され期待も高まっております。

このような環境のもと当社は、オペレーションサービス、ロジスティクスサービス、デリバリーサービスの3つの柱で、EC(注)におけるサードパーティーロジスティクス(荷主が第三者であるロジスティクス業者に対し、物流業務全般を長期間一括して委託すること)から小口配送までのワンストップサービスの提供を最重要戦略と位置付け、積極的な営業活動を推進してまいりました。また、将来の労働人口減少を見据えた人材確保のため、積極的な採用活動に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3半期累計期間における経営成績は、売上高5,527,776千円(前年同四半期比43.2%増)、営業利益382,465千円(前年同四半期比30.4%増)、経常利益381,937千円(前年同四半期比33.7%増)、四半期純利益241,747千円(前年同四半期比35.6%増)となりました。

サービス別の業績は、次のとおりであります。なお、当社はECソリューションサービス事業の単一セグメントであるため、サービス別に記載しております。

#### (オペレーションサービス)

オペレーションサービスにおきましては、主要顧客の通販関係荷量が伸長したこと及び新規顧客へのサービスを開始した結果、売上高は4,043,112千円(前年同四半期比33.9%増)となりました。

#### (ロジスティクスサービス)

ロジスティクスサービスにおきましては、主要顧客の通販関係荷量が伸長したこと及び新規顧客へのサービスを開始した結果、売上高は980,936千円(前年同四半期比35.8%増)となりました。

#### (デリバリーサービス)

デリバリーサービスにおきましては、過年度に受託した大型案件が継続して伸長したこと及び新たなエリアへのサービスを開始した結果、売上高は503,727千円(前年同四半期比333.7%増)となりました。

(注)ECとは、インターネットやコンピュータなど電子的な手段を介して行う商取引の総称。また、Webサイトなどを通じて企業が消費者に商品を販売するオンラインショップのこと。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ96,862千円増加し、2,133,198千円となりました。これは主に、現金及び預金が266,386千円減少する一方、売掛金が325,637千円、無形固定資産が34,077千円増加したことによるものであります。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ144,885千円減少し、1,108,122千円となりました。これは主に、短期借入金320,000千円、未払法人税等67,100千円減少する一方、買掛金が175,721千円、未払費用123,091千円増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ241,747千円増加し、1,025,075千円となりました。これは、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想については、平成29年5月12日発表の「平成29年3月期決算短信」からの変更はありません。今後、重要な変更がある場合には、適切に開示してまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,232,566	966,179
売掛金	644,441	970,078
貯蔵品	3,019	4,661
その他	38,943	39,980
流動資産合計	1,918,970	1,980,900
固定資産		
有形固定資産	62,168	63,346
無形固定資産	11,384	45,461
投資その他の資産	43,812	43,489
固定資産合計	117,365	152,298
資産合計	2,036,336	2,133,198
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	150,233	325,954
短期借入金	420,000	100,000
未払費用	229,208	352,299
未払法人税等	140,003	72,902
賞与引当金	—	1,233
その他	267,341	232,293
流動負債合計	1,206,786	1,084,683
固定負債		
その他	46,222	23,439
固定負債合計	46,222	23,439
負債合計	1,253,008	1,108,122
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	321,937	321,937
資本剰余金	224,937	224,937
利益剰余金	236,452	478,200
株主資本合計	783,327	1,025,075
純資産合計	783,327	1,025,075
負債純資産合計	2,036,336	2,133,198

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	3,859,315	5,527,776
売上原価	3,421,397	4,947,281
売上総利益	437,918	580,495
販売費及び一般管理費	144,706	198,030
営業利益	293,212	382,465
営業外収益		
受取利息	1	3
金利スワップ評価益	255	—
受取配当金	—	101
固定資産売却益	—	305
その他	380	70
営業外収益合計	638	480
営業外費用		
支払利息	5,679	877
株式公開費用	2,000	—
その他	481	130
営業外費用合計	8,160	1,008
経常利益	285,690	381,937
税引前四半期純利益	285,690	381,937
法人税、住民税及び事業税	107,534	125,574
法人税等調整額	△100	14,614
法人税等合計	107,434	140,189
四半期純利益	178,256	241,747

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。